

開催地名：愛知県常滑市	
開催日時	令和2年1月19日（日） 13:00 ～ 14:30
開催場所	常滑市役所
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	安全協働課職員，地域住民等 約100名
開催経緯	当市では住民の防災意識が低く、地域により意識、意欲にばらつきがある。東日本大震災の体験談、教訓についてのお話をいただき、防災意識の向上を図りたい。
内容	（１）震災発生時の諸問題 東日本大震災後、自分がどう動けばいいのかわからず、知識はあっても、どんなに準備をしても、まったくゼロからの出発となった。事前に準備していたように町内会単位での避難はできず、近隣の数世帯ごと、家族単位、個人単位での避難がほとんどであった。これが現実である。 大地震の前には震度2～4程度の地震が何回かあるのが一般的だ。その際、横揺れについては心配ないが、東日本大震災では地下から「ゴオー」と音がして縦揺れ、横揺れ、斜め揺れと、すごい揺れが継続した。家の中ではテレビが数メートル移動し、家具は倒れ、物が床に散乱した。なるべく家の高い所に、厚底の靴を置いておくことが望ましいと思う。（地震が発生したらその靴を履いて行動する） 水道管の破裂等でマンション内ではあらゆるところが水びたしとなっていた。電線が垂れ下がり、感電の危険がある中、着のみ着のままで避難したのが実情だ。その際に、携帯電話とバッテリー、携帯ラジオ、懐中電灯、電池、常備薬等を持ち出せると避難先で有効である。（携帯ラジオは避難所では唯一の情報源となるし、大き目の懐中電灯は天井に向けると全体がぼんやりでも明るくなる） 住宅事情にもよるが、家の中で1部屋だけ家具を置かない部屋があれば、家族がそこに集合できるので便利である。 （２）災害に対する危機意識を持つ 「今いる場所から避難場所を経由して、避難所に避難する」といったマニュアルは、各地域で保有されていると思う。ただ、発災時のまさにさし迫った状況で、具体的にどのようにして避難するかといった資料については、あまり見たことがない。もう一つは、女性中心の避難訓練を是非実施してほしいということだ。東日本大震災の場合もそうだが、発災が平日の午後2時46分ということで、まさに、働いている方々が自宅にいない時間帯である。その時間に地震が発生して、女性と、要援護者の皆さんが、いろいろな工夫をしながら避難せざるを得な

い状況だった。平日の日中の発災を想定して、女性中心の訓練の実施をお願いしたいと思う。

各地域で、災害時に当面の避難生活を行なう避難所として、指定避難所が設定されている。指定避難所となっている学校の近隣に居住されている方々については、防災訓練等で学校との連携を密にしていきたいと思う。そうすることで災害時にも連携がスムーズに行える。

(3) 震災から学んだこと

災害時にはインフラが麻痺し、ライフラインが壊滅的な損害を受け、電気・水道・ガス・交通・経済がストップしてしまう。そのときは自助だけが自分たちの助けとなる。訓練や心構え、知識、経験は決して自分を裏切らず、役に立ってくれるものだ。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずに、いざとなったらこれは必ず役に立つと考えて参加していただきたい。避けられない災害を共生することを意識して、備えは怠らずに生活していきたい。



開催地より

東日本大震災の被災経験をふまえた本日のお話は、非常にわかりやすく、住民の危機意識も高まったことと思う。